に、おくにごいしげにいる音のあまた聞えたる、いと心にくし、

〔後撰和歌集二十賀〕院〇朱雀の殿上にて、みや〇昌子の御方より碁盤いださせ給ひける、ごいしげのふたに、　命婦清子

をの丶えのくちんも去らず君がよのつきんかぎりはうち心みよ

〔空穗物語ぁて宮〕二月中の十日、年のはじめのかうしん出來るに、〇略中頭中將、〇略中ちむのはこに、去ろがねこがねのすぢやりて、去ろがねのごいしげに、去ろきたま、こむるりのいしつくりて、すぐろくのばんてうど、かくの如くにてさまかへて、ごてのせに、去ろがねにて、おなじはこにて奉れたり、

〔倭名類聚抄四雜藝具〕碁子　藝經云、白黑碁子、各一百七十枚、

〔增補下學集下器二財〕碁石

〔和爾雅五嬉戲具〕碁子

〔書言字考節用集七器財〕碁子指南、碁子云、白瑤玄石、碁子

〔毛吹草三〕攝津　備後町摺碁石

〔薩州府志七土產〕碁盤〇略中　圍碁之所用黑白石、始自紀伊海濱來、其形之大小、自然有適其用者、今絕、故多磨白貝黑石而作之、

〔日本風土記五碁格〕圍棋

圍碁子非造成者、乃本國沿海之傍、而有生成石子、儼如做成精緻、名曰天威子、出于養久山沿海之處、白子出于大隅山海傍、皆大隅州所屬之地、

〔中山傳信錄六器具〕棋枰

黑子磨黧石爲之、白子磨螺蛤頂骨爲之、

碁子